開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
半期	3年	2	必修
担当教員			
萩原 豪			
B (経営学科)	S (専門科目)	SM (演習)	401 (専門ゼミ・卒業論文等)
授業のねらい (概要)	「持続可能な社会の構築を視野に入れた観光まちづくり」について、環境教育・ESD (持続可能な開発のための教育) の手法を用いて、群馬県内の地域資源を活用した観光まちづくり、持続可能な社会の構築と観光まちづくりに関わる研究・実践活動を行う。文献研究による基礎知識の習得と同時に、グループごとに研究実践プロジェクトを進めていく。経営学研究法では卒業論文研究のための個別テーマを探し、4年次に卒業論文をまとめていくための準備を行う。		
授業計画	<p>1年間のゼミ活動を3部に分けて進めていく。</p> <p>第1部：群馬県内の地域資源に関する調査 (文献調査・フィールドワーク等) を中心に進めていく。</p> <p>第2部：この調査結果に基づいて研究実践プロジェクトを立ち上げ、企画立案を中心として進めていき、研究実践プロジェクトを実施する。</p> <p>第3部：研究実践プロジェクト実施結果の考察を行い、グループ毎にその報告をまとめ、発表する。</p> <p>予習 (時間) : 文献調査やフィールドワークを主体とした情報収集・レジュメ作成・レポート作成など。(120)</p> <p>復習 (時間) : ゼミ活動の振り返り、研究実践プロジェクトに関わる振り返りなど。(120)</p> <p>* 第1回から第4回を遠隔授業とする。</p> <p>* 第5回、第9回、第12回の授業を課題研究として学修する。課題研究の内容については、教員が指示をした研究実践プロジェクトに関わる内容について、指示された情報源や方法でレポートを作成して、教員の校正指示に従い完成させた上で提出をする。各回、330分の学修を想定している。</p>		
授業を通して身に付けることができる能力 (DP)	<p>DP (商学部) の3項目を意識した科目となっている。</p> <p>2. 情報の収集、分析を行い、進んで課題解決に臨む姿勢</p> <p>3. 専門的分野の学びを、実務や社会で応用できる能力</p> <p>4. 大学での学びを地域に還元し、価値を創造する姿勢</p> <p>DP (経営学科) の1項目を意識した科目となっている。</p> <p>2. 経営資源 (ヒト、モノ、カネ、情報) を多面的に理解し、活用できる能力</p> <p>【身に付くスキル】 生涯学習力・情報活用能力</p>		
到達目標	<p>(1) 自分の手と足と目と耳で情報を探し出すことができる。</p> <p>(2) 群馬県内の地域を観光とまちづくりという視点から活性化するための提案することができる。</p> <p>(3) 「持続可能な社会」と観光まちづくりの関係性について理解できる。</p> <p>(4) グループワークなどの協働作業を通じて、問題発見・認識力およびコミュニケーション力の習得と、積極性や責任感の醸成することができる。</p> <p>(5) プロジェクトの企画やレポート作成などを通じて情報収集力やITスキル (PCやインターネットの使い方)、文章力やプレゼンテーション力の習得することができる。</p>		
課題や小テスト等のフィードバックの方法	リアクションペーパーや課題等については全体的な注意点などを授業内で解説する。		
履修上の注意	<p>(1) 履修条件として、(a)本演習のテーマに関心を持ち、自らが「持続可能な社会」に対する活動を実践したいと思っていること、(b)地域活動に興味・関心があり、何事にも挑戦・体験してみようとする知的好奇心旺盛な学生の参加を歓迎したい、と掲げているように、ゼミ生自らが主体的に行動することが求められていることを留意すること。</p> <p>(2) ゼミ活動としてフィールドワークや研修合宿 (夏および冬に実施、いずれかは鹿児島を予定) を実施したり、地域での活動に参加したりするので、時間を調整し必ず参加すること。(いずれも費用は実費自己負担)。</p> <p>(3) フィールドワークには大学内および大学近郊での農業体験が含まれる。</p> <p>(4) プロジェクトの進捗状況等によって授業内容を組み替える可能性もある。</p>		
成績評価の方法・基準	前期末レポート (1,200~2,000字程度) および学年末レポート (2,400~3,000字程度) の提出を求める。また毎回の授業後にリアクションペーパーの提出を求める。評価基準は学修意欲：30%、レポート：30%、研究実践プロジェクトの企画立案・実施・報告 (発表) : 40%、で総合的に判断する。 [注意] 中間レポートおよび最終レポートの提出がない場合は評価対象外とする。		
教科書	教科書は別途指定する。		
参考書・教材	<p>【参考書】参考文献については授業中に適宜紹介していく。</p> <p>【教材】これ以外の参考文献として、書籍・新聞・雑誌・マンガ・映画・ウェブサイトなど、身の回りにある情報源から関連する事柄を幅広く取り上げていく。紹介する事例によっては、ビデオやDVDなども用いる。また必要に応じて、参考資料を配付する。</p>		

備考	講義科目 * 第1回から第4回を遠隔授業とする。 * 第5回、第9回、第12回の授業を課題研究として学修する。課題研究の内容については、教員が指示をした研究実践プロジェクトに関わる内容について、指示された情報源や方法でレポートを作成して、教員の校正指示に従い完成させた上で提出をする。各回、330分の学修を想定している。
教員との連絡方法	基本的にメールを用いる。授業用アドレスは授業内で告知する。